

令和4年8月6日

書籍のご案内

『日本文化原論 永続思想 主体性学』

真なる調和への道七色の虹の架け橋(著 横山俊一)

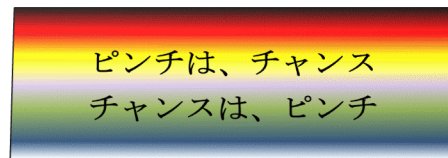


近日、アマゾンで
販売予定です。

本体価格 1,780 円
(税抜き)

編集
美粋書房

発行



ご挨拶

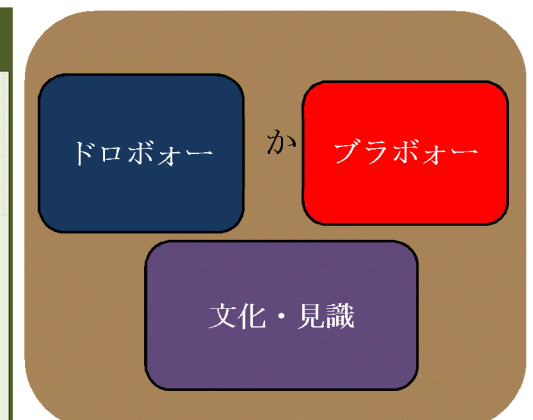
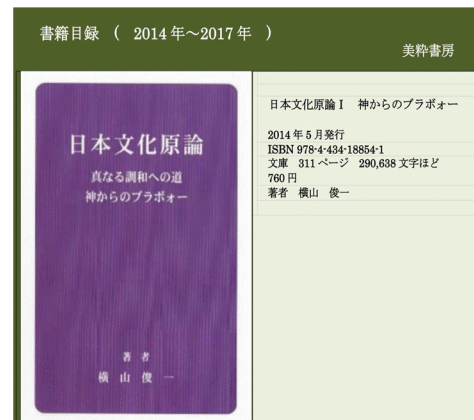
文化慣習

1) 縁起物制作と思想形成

幼少の頃より縁起物制作と販売に従事し民間の会社に約8年間勤務し文化論の執筆を始めて約10年経ちました。「家内安全と商売繁盛と健康長寿」という基本祈願に対しこれを遂げる方法的な思索と施策が続き、表現にも生命観らしき性質が形成され広くご案内してもよろしい段階に到達したかの認識が起きます。哲学文化論を学校教育の科目構成へ及ぼせる働きかけをしている中にあります。確たる領域観と稼働と実践力を太めたく日々執筆が続けられます。2014年5月発行の「日本文化原論 真なる調和への道 神からのブラボォー」から改善を重ね本書の形成に至ります。多くの人々から良い力を賜り衷心より感謝申し上げます。

1-1 因縁生起と思想世界観

意識的か無意識に、因縁生起という感覚が備わり思想世界観の産出へ及ぶ。



2)文化思想の執筆活動

昨日(2022.8.1)、近所のコンビニのATMでお金を引き出そうとした所、キャッシュカードが使えない状態になった。前にもこのような経験をした事がある。頻繁にあるわけではない。当方は日ごろ文化論の執筆活動をしている。良好な社会性と生態を作る事を求め、書いた内容をメディアに掲載する。さらに、各種の教育機関に、このような内容の科目を作るように、働きかけをしている。哲学文化科目などと題し、生命観や人間観、などという根本的な概念の提起と稼働の規則性を促進させるという創造力であると認識する。メディアの掲載は、広く社会への提案作用を生み、産業経済、政治行政、教育文化などという各特定領域へ概念を示し納得感や共感性が進めば、こうした根本概念を反映して個別特定現象の性格を作るという因果性が産み出される。メディア掲載と各種特定領域の価値基準と稼働性に及び、良好な社会性や生態を作る事に回る。教育機関への基盤性科目の確立を図り、人間と現象の起源性から良好な感性や発想と思考と行為の習慣性を作り、生命や人間性という性質が作りこまれ、実社会における活動と秩序の良性へと連なる。2013年12月頃から執筆活動を習慣とする。この時期から何やら論文を外部からサイバー犯罪による不正な手段による監視や論文の盗みや悪性ウィルスをパソコンに加え、これまで約三台のパソコンも破壊されている。大手メディア、テレビ、新聞、政治、経済等の領域で論文の引用をせずに用いられているという認識を常態する。そして、冒頭に申し上げたような現象が発生する。権力や財力、技術力の暴走的な活用と判断している。ある程度、主犯格となる対象も絞り込まれる。日頃の習慣や長年の規則性から健全な制御性を欠く発想や手段に外れる性格が産み出される。あるべき生命観や人間観や創造観の導出と一般傾向側の抽出に及ぶ。このような内容を論文という形に纏め良好な言葉や概念、思想世界観を表すことに及ぶ。

3)当該創造性の範囲

3-1 活動観と方法的、分化と統合

適当な思考の枠組みとして「理念と現況と方法と検証と改善と持続」という観点と相関と習慣として活動観を生む。実際はいずれの要素にも方法的性を内在するように感じる。個々の生い立ちや歴史性、成長段階等からどのような側面に力の割合が向けられるか、程度の違いを生む。完結的一巡の観点を持って分散と統合の適正に向けられる。

3-2 主要な産出：文化観の導出

以上のようにして、根本且つ大局観と個別特定性の相関と体系の認識を生む。根本且つ大局性を主要な関心に絞り、概念形成と稼働と検証と改善と持続の系を有する哲学文化領域を生む。文化観という概念導出に絞り、良好な産出を遂げることに当該創造の範囲が生まれます。

3-3 動態と産出

人間と生態の健全と永続という万人集約性の理念の導出と実践を図る思想体系を産む。主体性原理と具象化し精査する。変らぬ土台的基礎と全体性を構成する。

3-4 執筆過程と産出性

文章執筆は、後半から前半へ向け思索と施策と改善を重ね更新が成されます。前半部分へ行くほどに最新の基準概念を生み「まとめ」に集約されます。「過程と産出」の関係が形成される。

まとめ、一部から五部
文字数 156.989 ほど
A5 435 ページ
白黒 408P カラー27P

目次

まとめ	1
ご挨拶	2
文化慣習	2
1)縁起物制作と文化観	2
2)文化思想の執筆活動	3
3)当該創造性の範囲	4
一章 領域性の原理	16
1)広狭の普遍的不変性	16
2)過程性	18
3)根本原理性：領域性の原理	20
二章 思想世界観	22
1)哲学文化の生産性(独立性・領域性)	22
2)哲学文化的生産と交流	27
3)信仰とは、縁起とは	29
三章 学術科目構成と実践	33
1)思想世界観と実践性	33
2)並列と循環	33
3)健全な生命と人間と生態の実現	35
四章 哲学文化科目	36
1)基盤性科目	36
2)基礎と専門	39
3)根本的観点	42
4)創造力の包括観と主体性像	43
5)授業概要と計画	44

一部	53
一編 哲学文化	54
一章 哲学文化政策	54
1)特定現象の観測と評価分析、及び哲学文化政策	54
2)普遍的不変の標準概念	56
3)文化文明観の導出と運用	61
4)根本性と一般性と個別特定性	65
二章 人間学	67
1)人間学	67
2)哲学文化の創造力	70
3)主体性と領域性	74
4)哲学文化性の意義	79
5)同一性の尺度	81
6)広義の宗教	85
二編 創造の要約	88
一章 概念と稼働と検証	88
1)不動的理念性、普遍的理念性	88
2)現象の形成	88
3)問題現象の出現	89
4)因果性の解明	90
5)適正化の作為	92
6)教育観	96
二章 概念形成	100
1)概略的現象	100
2)具体の現象(精査性)	101
3)日本文化原論 永続思想 主体性学	104
三章 概念と現象	107
1)哲学文化政策	107
2)基盤性科目と専門科目	109

3)思想世界観	110
三編 哲学文化政策	114
一章 動静観	114
1)動静概念	114
2)時代背景と社会ニーズ	118
3)日本文化原論 永続思想 主体性学	119
二章 哲学文化政策	122
1)起源性：特定現象と因果分析	122
2)創造力の包括観と科学性の認識	123
3)理想性の導出	125
4)技術性	127
5)起源と理想と科学と技術	129
二部	131
一編 根本的概念	132
一章 宗教・哲学・文化	132
1)宗教性・哲学文化性	132
2)思想世界観	135
3)文化性と世界観	139
二章 哲学倫理・文化観	142
1)哲学文化領域	142
2)倫理学	145
3)長期周期性	149
二編 当該創造力の性格と範囲	154
一章 根本且つ大局性の原理	154
1)抽象原理性	154
2)基礎基盤性科目	157
3)思想世界観の原型	161
二章 思想世界観とは	163
1)はじめに	163

2)外側：動的文脈	163
3)内側：特定創造力	165
4)内外性	167
三章 主要内容	169
1)永続思想と主体性学	169
2)思想世界観の骨子	173
3)哲学文化性	178
4)主要概念図	181
三編 永続思想と主体性学	184
一章 思想世界観	184
1)特定現象	184
2)習慣性：個別・特定・全体・根源・根幹・総粹	184
3)政治観・国家観	184
4)生命・人間・創造観	185
5)根本性と対象性と適用	185
6)社会観	186
7)産業経済観の高まり	186
8)学問・学術	186
9)長期原理性	187
10)根本且つ大局観と個別特定観	187
11)根源・根幹・産出	188
12)思想世界観	189
二章 哲学文化観	190
1)普遍的不変性と個別特定性	190
2)感性和観念と精神と身体の相関と習慣	190
3)人間観と生態観	191
4)哲学文化観	191
三章 日本的なる性格	193
1)特定現象	193

2)適正化の原理と稼働	193
3)哲学文化観	194
4)当該創造力の要点	196
5)日本的なる性格	197
四編 はじめに	201
一章 長期原理性	201
1)特定現象	201
2)問題性の認識	201
3)適正策の導出	202
4)健全な感性と制御	205
5)思想世界観	206
二章 普遍的不変の世界観	210
0)はじめに	210
1)基礎基盤性科目	211
2)思想世界観	215
3)根本思想	218
三章 宗教と創造性	221
1)宗教	221
2)抽象理論性：皮膚感覚の宗教観	222
3)具体の施策性：生産活動	222
4)宗教の質実	224
四章 領域観・世界観	225
1)当該創造性	225
2)特定現象	225
3)観測と評価分析	226
4)提案性	227
五編 哲学文化	231
一章 思想世界観	231
1)広狭の長期原理	231

2)長期原理性	234
3)思想世界観の動力源	237
4)思想世界観の形成過程と産出	239
5)哲学文化	241
二章 当該創造性の要点	245
1)対象の限定	245
2)領域観（生命観・人間観・生態観）	245
3)社会観の分析と導出	247
4)共通性と相違性	248
5)概念集約図	249
三章 哲学文化の生産性	251
1)教育概念	251
2)主導性と一般原理性	251
3)活動法則：動静観	252
4)概念形成	253
5)哲学文化性	253
四章 長期原理性	255
1)永続思想と主体性学	255
2)基幹性の基準	258
3)侮辱罪	259
4)健全な自由主義	261
5)七項性	262
三部	263
一編 はじめに	264
一章 創造力の初動的観点	264
1)特定現象	264
2)力の支配と感性と道理や道徳の秩序	264
3)日常観	264
4)専門性・学問・学術	265

5)具体の施策	267
6)まとめ	268
二章 要約：永続思想と主体性学	269
1)哲学文化とは	269
2)思想世界観	272
3)具体の観点	275
4)集約概念と解説	277
三章 哲学文化とは	279
1)特定対象の限定	279
2)哲学文化	280
四章 長期周期性	284
1)哲学文化・思想世界観	284
2)長期法則性	286
二編 永続思想と主体性学	289
一章 抽象要約	289
1)目的と方法	289
2)普遍的不変と個別特定	289
3)基準と稼働	289
4)基準の形成過程	293
二章 具象要約	294
1)創造の包括観	294
2)抽象理念化と集約体系観	297
3)応用的実践の観点	300
4)まとめ	301
四部	307
一編 はじめに	308
一章 概要	308
1)主体性原理	308
2)成長過程論	311

3)領域の大枠観	313
4)永続思想と主体性学	314
二章 背景性	315
1)哲学文化の創造性	315
三章 施策性	319
1)哲学文化政策	319
二編 全容要約	322
一章 概要	322
1)根本原理性	322
2)概念図	324
三編 思想世界観	325
一章 概要	325
1)根本原理と適用	325
二章 外側	326
1)経済現象と本質性	326
2)根本原理性	326
3)生命観・人間観	326
4)根本原理と応用	327
5)非社会性と非人間性	327
6)今日的な課題	328
7)事前性・包括性	328
8)哲学文化性	328
三章 内容	329
1)思想世界観の意図	329
2)根本性と産出性	330
3)抽象と準抽象と具象	330
4)準抽象的観点と原理	330
5)具象的観点	332
6)詳細	333

五部	335	5)哲学文化政策	377
一編 要点	336	三章 哲学・文化観	378
序章 解説	336	1)永続思想 大局観（有限性と無限性）	378
1)基本原理（ 広狭の倫理道德観 ）	336	2)動静観	379
2)当該創造力	338	3)静態観	381
一章 創造性の範囲	339	4)動態性	383
1)背景	339	四章 哲学文化の思慮と創造	384
2)中長期周期（一般と専門と根本且つ大局）	342	1)生命観	384
二章 永続思想	344	2)生態観	386
1)真なる調和への道 七色の虹の架け橋	344	3)哲学文化科目	389
2)動静観	351	4)長期原理性	391
3)特定領域性	352	五章 基礎基盤性の研究と提起	395
4)根本的特定概念	355	1)創造性の全体像	395
二編 哲学文化	359	2)特定観点	397
はじめに	359	3)適正化の方策	397
1)特定対象の選定	359	4)体系的な基礎の充実	398
2)思慮と反省と適正化	359	図表	400
3)適正策の導出	359	1)総合	400
4)普遍的不変性の観念	360	2)動静概念	401
一章 総論	363	3)根本性	403
1)哲学文化政策、思想世界観	363	4)静的概念	405
2)総枠観の適正	365	沿革	413
3)基礎基盤性科目	367	1)プロフィール	413
4)長期インフラ性	368	2)定番と変則	415
二章 哲学文化政策	371	3)神棚と鏡	416
1)現象と観測、評価、分析、施策	371	4)縁起物と思想	417
2)間接施策	372	5)日本文化原論・執筆の軌跡	422
3)概念・枠組みの設け方	372	写真	425
4)稼働的な集約観念	375	1)縁起物販売	425

2)縁起物展示 426

3)店舗外観 427

4)樹木の成長、鳥の飼育 428

あとがき 430

1)普遍的不変性 430

2)不完全性と完全性 430

3)幸福感と真の永続思想 431

書籍目録

大項目	中項目	ページ数	価格	執筆日	発行日 発行所 ISBN
はじめに	入門編 バラエティー編	A5 55p A5 28p	0 円	2011. 12	978-4-9906416-0-3
真なる調和への道 シリーズ	I 生存と自由の拡大	A5 71p	480 円	2012. 2	2017. 3 美粋書房 978-9906416-1-0
	II 健全性	A5 93p	520 円	2012. 3	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-2-7
	III 人類の教科書	A5 245p	650 円	2012. 5	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-3-4
	☆取り纏め版	A5 43p	400 円	2012. 7	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-4-1
活動の研究 シリーズ	I 活動の研究	A5 138p	430 円	2012. 10	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-5-8
	II 活動の研究	A5 30p	320 円	2012. 11	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-6-5
	III 活動の研究	A5 41p	340 円	2012. 12	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-7-2
	☆活動学	A5 86p	480 円	2012. 9	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-8-9
日本文化原論 シリーズ	I 神からのブラボォー	文庫 311p	760 円		2014. 5 ブイツーソリューション 978-4-434-18854-1
	II 七色の虹の架け橋				
	一編生産性の具象	A5 60p	380 円	2014. 5	2017. 3 美粋書房
	二編主体	A5 49p	380 円	2014. 6	2017. 3 美粋書房
	三編人間学の要諦	A5 75p	430 円	2014. 7	2017. 3 美粋書房
	四編集約編	A5 72p	470 円	2014. 8	2017. 3 美粋書房
	五編総論	A5 79p	480 円	2014. 9	2017. 3 美粋書房
	六編基礎	A5 57p	430 円	2014. 10	2017. 3 美粋書房
	七編活動観念	A5 49p	430 円	2014. 11	2017. 3 美粋書房
	八編主体性学	A5 56p	450 円	2014. 12	2017. 3 美粋書房
	九編生産原理	A5 35p	380 円	2015. 1	2017. 3 美粋書房
	十編動性概念	A5 50p	430 円	2015. 2	2017. 3 美粋書房
	十一編真理の探究	A5 69p	460 円	2015. 3	2017. 3 美粋書房
	III 洗練集約版	A5 80p	793 円		2017. 2 美粋書房
	IV 人類永続への方途	A5 40p	880 円		2017. 2 美粋書房
	V 永遠の動態という 静態原理	A5 168p	1145 円		2017. 3 美粋書房
目録	全著作の経過と体系	A5 44p	570 円		2017. 3 美粋書房

沿革

1)プロフィール

1-1 氏名

文化活動家 横山俊一(よこやましゅんいち)



幼少の頃より縁起物制作と販売に約 35 年間従事し、その間に会社勤務を 8 年間程経ながら、平成 14 年(2008 年)1 月に縁起物制作を専業にして約 10 年経過し、平成 23 年(2011 年)12 月頃から文化論の執筆が習慣となりました。平成 26 年(2014 年)5 月に、「日本文化原論 真なる調和への道神からのプラボォー」を出版し令和 4 年 2 月(2022 年)に「日本文化原論 永続思想主性学 真なる調和への道 七色の虹の架け橋」と題し、概ね文化体系が整い人様に広くご案内を進めて良いものと考えました。祖父母や両親は既に他界しましたが縁起物作りの精神性は持続し今日に至ります。三世代の活動成果をご覧くださいますと幸いです。

年月		縁起物 制作販売	会社 勤務	文化論 執筆
1970.4	出生			
1977.		手伝い		
1992.7			金融業	
1997.11			業務コンサル	
2002.1		専業		
2012.3				美粋書房
2014.5				神からのプラボォー
2019.1				主体性学

1-2 沿革

明治 38 年 祖父春吉 創業羽子板、だるま、雛人形、飾り熊手等の縁起物制作。
昭和 45 年 4 月 5 日 埼玉県新座市で、父俊春母キクエの間に生まれる。

1-2-1 家族構成 両親と姉

父と母は、子供の名前に「恵美子、美代子、正子」「俊一」と付けた。
美に恵まれる子、美に代わる子、正しい子、という理想の変遷する姿が見られる。自己の成長と子供の名前に密接な相関が見られる。自己自体の分身として子供と名前を表し理想と方法が投じられる。

1-2-2 学歴

昭和 58 年 3 月 大和田小学校 卒業
昭和 61 年 3 月 新座市立第二中学校 卒業
昭和 61 年 4 月 二松学舎大学付属高校入学、昭和 62 年 12 月退学
平成 4 年 5 月 大学入学資格検定合格
平成 8 年 4 月頃より中小企業診断士試験の専門校に 1 年程度通う
平成 10 年 9 月 産能短期大学能率科通信課程 卒業
平成 15 年 9 月 日本大学法学部政治経済科通信課程 卒業
平成 19 年 20 年 21 年、臨済宗妙心寺の仏教夏期講習 3 年間通う